

第1問

問1 ① じづら ② 論旨 ③ 膨大 ④ ずがら

問2 ⑤ 読み いっきよしゅいつとうそく / 語義 細かな一つ一つの動作や行動

問3 お葬式には普通、黒い服を着た人たちが集まり、何人かが泣いていて、みな暗い顔をしていると
いうこと。

問4 海外の前衛的な映画に対しては、表現されている場面や状況の行間を補うための、映画の舞台と
なる文化における日常生活のスキーマが不足しており、また、ストーリーの一般的展開の仕方につ
いての知識である物語のスキーマが、作品を理解する際に通じなくなるから。

問5 スキーマがないと、すでに持っている知識を使って新しいことを理解するのが難しく、理解が難
しいと記憶することもできなくなるから。

問6 スキーマが覚えるべき内容に意味づけをし、必要な情報にのみ注意を向けさせており、物事を様
々な知識によって解釈した結果として残される記憶は、「客観的な出来事の記録」ではなく、各自
の持つ知識のフィルターを通して解釈され、構築されたものになっているということ。

問7 訪問の際には、電話やパソコンといった研究室に当然あると期待されるモノには注意が向かなく
なり、不確かな記憶しか残せず、思い出すときには、「大学の先生の研究室」というスキーマによ
って、「あるはずのもの」を「あったもの」として、その情報を引き出してしまっから。

第2問

問1 ① 腐心 ② 清廉 ③ 厳肅 ④ 霧散 ⑤ 静寂

問2 月島の住民の多くが同じ職業に従事し、同じ生活習慣をもっていたことが、共同体意識の醸成(育
成)に有効に働いていた。※誤読していないことがわかれば、字句や内容が解答例と異なってい
ても可。

問3 江戸城の直ぐ下の町という本来の意味ではけっして下町とはいえない場所にある月島が、現代に
おいては、下町の代表のように見做されていること。※誤読していないことがわかれば、字句や内
容が解答例と異なっても可。

問4 I || C II || B

問5 外部の人間の気軽な侵入を拒否するかのように狭く閉鎖的で、これにより内部の住人のプライバシーが守られ、寛いだ親和的な状態が形成されている空間の力学（状況）。※文脈と設問の主旨を理解し、わかりやすく説明できていれば可。

問6 月島の路地に暮らす人々は、社会を時代の流行にのつた紋切型の発想で捉えるのではなく、それぞれの日常生活に根ざした一人一人の独自の視点で、現代社会を観察し、自分らしく生きているのだという考え。※文脈と設問の主旨を理解し、わかりやすく説明できていれば可。

問7 狭く薄暗い内側の場所から、声高に語られ、派手派手しく喧伝される世界の諸々相を、権力とは無縁に、気長に、辛抱強く、寡黙に、観察し批評し続ける視点。※文脈と設問の主旨を理解し、本文中の表現を用いて、わかりやすく説明できていれば可。

第3問

問1 言い始めたのである。

問2 世の中から隠れて朝倉の木のまる殿に住んでいたのので、そこに入入りする人は必ず天智天皇（太子）から聞きただす前に名乗らなければならないということを取り請した。

問3

「え」	「は」	「ざり」	「けれ」
(品詞) 副詞	(品詞) 動詞	(品詞) 助動詞	(品詞) 助動詞
(活用形) なし(空欄も可)	(活用形) 未然形	(活用形) 連用形	(活用形) 已然形

問4 惟規が歌よみであったため。

問5 (意味) 退出する (動作主) 惟規

問6 かねてから齋院は「木のまる殿」の由来について聞いていたところ、惟規も「木のまる殿」を通る際は名乗りをしなければならぬことを知っていて、それを歌に詠みこんだため。

問7 惟規が「木のまる殿」の由来について詳しくは知らなかったこと。

問8 歌に関心が高く歌に関する知識も豊富で、歌よみを尊重する人物であることがわかる。